

朽木谷を經由した若狭街道

針畑越と朽木街道

御食国若狭と鯖街道

京都と若狭を結ぶ主要ルートである「若狭街道」は、その近さから「京は遠ても十八里（72km）」といわれ、古くから若狭地域の海産物をはじめ、日本海経由の文物を運ぶ街道として利用されてきました。若狭の魚が新鮮なうちに京都に届くようにと、行商人が夜通し歩き、翌日には京に届けられ、そのころには、ちよūdご良い味になったと伝えられています。この

ことから、若狭街道は「鯖の道」と称されるとともに、最近では「鯖街道」とも呼ばれ、隣接する若狭小浜地域では、日本遺産「御食国若狭と鯖街道」としての活用に取り組みられています。

最古のルート針畑越

古くから荷運び人たちが盛んに行き交った若狭街道ですが、そのルートはいくつか存在することが判っています。室町時代の資料には、2つのルートの記録が残っており、このうちの朽木の西部を經由する「針畑越」です。



おり、このうちの朽木の西部を經由する「針畑越」です。

朽木街道と木地山越

もう1つのルートは、京都の河原町今出川付近を起点に、大原↓葛川↓朽木↓保坂↓熊川を通るルートです。後に「朽木街道」とも呼ばれ、最も利用度が高く、現在もこのルートは、国道367号線としてほぼ受け継がれています。この2ルート以外にも、朽木の三ツ石で分岐し、麻生川を遡り若

狭に至る「木地山越」と呼ばれるルートが存在するなど、若狭街道は、単なる若狭と都をつなぐ街道としての役割だけではなく、朽木谷の人々による長年の営みや交流などによって、幾筋も育まれてきました。

何本もあった若狭街道も時代の移り変わりとともに、道のりが遠くても高低差が小さい「朽木街道」が重要視され今に至ります。その一方、針畑越は、古くからの景観や趣のある古道の情景を残すことから、最近では山登りやトレッキングで、再び多くの人々を魅了し、引き付けるルートとなっています。

文化財課

☎(32) 4467

編集感

今年の3月から、高島市公式のフェイスブックとインスタグラムが始まっているのをご存知ですか？今までの広報媒体（広報誌・防災行政無線など）とは違った視点で、高島の魅力を広く発信しています。最近、発信する魅力を求めて取材を行っているの、普段見る市内の景色が今まで以上に魅力的に見えるようになってきました。市内には自分の知らない魅力的な場所・出来事がまだまだたくさんありますね。ぜひ、みなさんも人に紹介する視点で周囲を見回してみてください。(H)

広報たかしま

平成29年

6月号

No.209

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
 〒501-8501 滋賀県高島市新旭町北畑ののり番地

☎0740(25)8000(代)
<http://www.city.takashima.lg.jp>
 ✉t:info@city.takashima.lg.jp